

## 50期生が合格体験を語る

—「先輩と語る会」—



3年生が1・2年生に大学受験・合格までの体験を語る「先輩と語る会」が3月12日に行われました。70名余りの50期生が、各教室に約10名ずつ割り振られ、自らの体験を語ってくれました。受験勉強を進めるうえで苦労したことや具体的な学習方法、志望校の決定時期など、次々に質問が出ていました。いよいよ受験まで1年を切った2年生の教室では、特に熱気が感じられました。

終了後、1・2年生からは、「先輩に直接話を聞いて、危機感を感じた」、「授業や宿題が大切だと分かった」、「携帯電話の使用を制限した方がいいと思った」という声が、数多く聞かれました。

50期生の体験談を参考に自分の学習方法を見直し、新年度に向けた学習にしっかりと取り組みましょう。

## 50期生大学入試で健闘 —全容判明は3月末—

今春入試において50期生は最後まで粘りを見せて健闘し数多くの生徒が栄冠を手にしています。現在までのところ、京都大、名古屋大、広島大、熊本大、鹿児島大などの国・公・私立大学等（薬学部・獣医学部を含む）に多数合格しています。しかし、涙を呑んだ50期生も少なからずいます。新2・3年の皆さんが来年、再来年合格を勝ち取るには、学力向上のための地道で弛まぬ努力が必要です。

国公立大学中・後期日程の合格発表は20日～22日になります。その後、大学によっては追加合格や2次募集が行われるため、国公立大学合格者の全容が判明するのは3月末になります。50期生の合格状況は、新年度4月発行の『進路指導室だより』や『進路詳報』でお伝えします。

### 「受験生」になるための3ステップ

#### ① 進路を決定しよう！

受験勉強をやみくもに始めても、途中で息切れしてしまう可能性があります。まず大事なことは、「絶対〇〇大学に行きたい!」というような強い動機(モチベーション)を持つことです。現段階では、志望校が未定の人も多いかもしれませんが、今一度、自分の志望について考えてみましょう。本当に行きたい大学や学部・学科があれば、取り組み方も変わってくるでしょう。

#### ② 入試までの流れを意識しよう！

進路を決定したら、入試までの流れをイメージし、いつまでに何をすべきか、どのような学習の進め方をすればよいかをノートに書き出してみましょう。今の学力を志望校の入試レベルに到達させるためには、やるべきことがたくさんあります。限られた時間の中で夢を実現させるためには、自分で小さな目標を立て、それを一つずつ達成していくことが大切です。

#### ③ 基礎力を強化しよう！

受験勉強を始めるにあたって、最初に取り組むべきことは、基礎力の定着です。基礎力がなければ、入試問題を解くことはできません。特に、苦手な教科がある場合には、まず基礎・基本的な問題を解けるようにします。あれこれ手を出すのではなく、一つの教材で基礎固めの学習を繰り返すことが重要です。また、自分の2次科目については、基礎力を固めた上で応用力を養成していきましょう。方法等について不明な場合は担当の先生に相談してください。

上記①～③をふまえて、今すぐ受験勉強をスタートさせよう！

## 【2学年部から】

去る3月12日(木)、6限目に「先輩と語る会」が実施されました。国公立大学前期日程試験において見事栄冠を勝ち取った先輩方が各クラスを訪れ、それぞれの受験体験談や質疑応答を行ってくれました。生き生きとした先輩方の表情、言葉に直に触れて、「来年は自分も!」と思ったことでしょう。4月からはよいよ3年生。気を引き締めてぜひ先輩方に続いてほしいと思います。

今回は、2年生の皆さんがまとめてくれた「先輩と語る会」の感想を掲載してお届けします。

### 理系クラスの感想

- 今年の「語る会」は去年とはみんなの意識が違って、受験が間近であることを実感した。受験の秘訣は、最後まで諦めない気持ち、体力、心の健康が大切だということを経験した先輩方がおっしゃっていた。ポジティブに、前向きに受験に取り組んでいきたい。
- 「語る会」を通して、受験に対する不安が少し和らいだ。疑問に思っていた、各教科の勉強法が学べたことが一番の収穫だった。「模試の判定で浮かれてはいけない」「宿題と授業を大切に」ということを先輩方から聞くとても説得力あるものに感じた。今の気持ちを忘れないように心にとどめておきたい。
- ほとんどの先輩が、「今、この時期が本当に大切! 受験が終わってから実感するだろうけど…」とおっしゃっていた。自分の今の甘さを感じた。また「基礎をしっかり作ってから応用に入っていく」「重要事項をまとめたメモ帳を作り、テスト前に見直す」「テスト前には自信のあることを思い出して臨む」などのアドバイスを実践していこうと思う。
- テスト・入試直前や登下校時のすきま時間に見返せるような、間違えた問題や公式などをまとめたノートを作りたいと思う。
- 工学部に合格した先輩から、苦手科目を早くなくす、数学は時間をダラダラかけるよりも学習の質を高める、というアドバイスをもらった。
- 携帯電話との向き合い方で、早く止めた方がよいと言う方がほとんどだったので、もっと自分に厳しくしていきたい。
- これから一年、大変だろうが友達と競いながら志望校めざしてがんばるぞ、という気になった。

### 文系クラスの感想

- 来年は自分が語る立場になりたい。多くの先輩方が、日々の積み重ねこそ大事とおっしゃっていたので、どんなに忙しくても、眠くても、勉強しない日がないようにしようと思う。
- 「数学は公式を覚え、教科書やフォーカスゴールドを参考に今の時期は基礎を固めるべし」「国語は漢字も重要。評論は先に設問を読んでおく」「日本史は教科書を隅々まで読み、春休みまでに今までの復習を終える」といったアドバイスをいただいた。
- 国語や英語の長文問題は接続詞が重要という話が多く、今後気をつけたい。また、勉強そのものだけでなく、部屋をきれいに保ち、携帯電話等の誘惑物を部屋に置かない等の工夫も心がけたい。
- センター試験が命とおっしゃる先輩が多く、自分に合った勉強法を早く確立してあきらめずにがんばりたいと思う。
- ほとんどの先輩が「宿題をしっかりやれ」とおっしゃった。「今からやれば間に合う」という言葉を信じて、やるしかない。
- 睡眠時間が重要、足りないとうまく授業で大事なことを逃してしまう、と言われた。
- どの先輩も平日約5時間、休日約9時間勉強したと聞き、今の自分に同じことが出来るか不安になったが、今から少しずつでも意識して変化していきたい。また、毎日英語には触れる、勉強する場所は複数あった方がよいというアドバイスも生かしていきたい。
- 志望校を早く決め、学習の質を高めて集中しなければならないということを学んだ。受験勉強と言っても何も特別なことはなく、毎日の予習・復習、授業を大切に、といった基本的なことが何より大切なのだということがわかった。

**センター試験まで1年。今まさに受験生!**

**~土日は学習室で勉強しよう~**

## 【1 学年部より】

### 1 年を振り返って

まもなく 1 年生が終わります。1 年前に 52 期生の皆さんのなかには合格発表を見に来た人も多かったのではないのでしょうか。新しい高校生活に向け、気持ちも新たにやる気満々の日々を送っていたことと思います。4 月 8 日は第 52 回入学式。新しい仲間との高校生活が始まりました。

4 月には自転車による事故が続きました。年度末にも数件の事故が起きました。事故を起こさないように注意深く、慎重に行動していれば防げたのかもしれない。中学校までと違い、自分の世界が少し広がったことに十分対応できなかったのかもしれない。

もう一つ残念だったのが、携帯電話・スマートフォンに関する指導が 3 学年の中で最も多かったことです。「校内持ち込みの届け出」「校内では電源を切る」といったルールが守られていませんでした。自分の行動を律することができなかったようです。

一方、学年集会の集合においては、早めに集合が終わるとともに、静かに待つことができる集団でした。集団の一員として、自律できる 52 期生なのに、個人になるとルールが守られないのは残念でなりません。2 年生になったら、やらなければならないことがきちんとできる個人の集まりになってほしいものです。

### 高校生活でやるべきことは

学校生活でやるべき事をまとめてみます。

- ① 7 時 30 分には着席する（朝課外開始 7 時 35 分の 5 分前行動）
- ② 8 時 15 分から 8 時 30 分までは一読三嘆または 1 日の準備の時間にする
- ③ 休み時間は、前時の復習・質問や次の授業のための準備の時間にする
- ④ 掃除予鈴で掃除場所に向かって移動を開始し、速やかに掃除を始める
- ⑤ 終礼後は、部活動か学習室での自習、または教科担任の先生への質問の時間に充てる

次に家に帰ってやるべき事をまとめてみます。

- ⑥ 平日の家庭での学習は 3 時間、授業のない日は 6 時間以上確保する
- ⑦ 睡眠時間をしっかり確保する

これらのことを実行するためには、我慢しなければならないこともあるはずです。自律した生活を実現し、再来年の春には自分の目指す進路に進むことができるように努力していきましょう。

### 鹿児島中央高校の伝統を大切に

本校の伝統にはユニークなものがあります。その中から、ろう引きについて紹介してみます。

昭和 38 年に開校した本校は、現在の校舎を使っていた鶴丸高校の新校舎が未完成だったため、一年間は現在の県立短期大学の場所で開催を行いました。開校 2 年目に加治屋町の現在の校舎に入る時、それまでの生徒達が土足で上がっていた校舎内の廊下や教室の床に水をまき、デッキブラシで磨き、泥を完全に流し去りました。そして、「新しい鹿児島中央高校」としてのきれいな床にするためにろう引きを始めたといわれています。鶴丸高校ではない、鹿児島中央高校としての校舎を大切にし、きれいな環境を自分たちで作り上げ保ち続けようという気持ちの表れです。

このことは、言い換えれば、床を磨き上げてきれいにするを通して、自分自身を磨き上げていると言えます。学業にしても部活動にしても、整理整頓してしっかり準備することで、よりよい成果が得られるものです。美しく磨き上げ、滑りのよい床になると、達成感も得られます。団訓や遠行等の行事も創立以来続いています。それぞれの行事や作業の意味を考えて、自分自身をより高めてほしいものです。